

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 群馬県日本語教育支援政策研究会

1. 事業の趣旨・目的

本事業で実施する日本語教室「日本語でできた！」の目的は、生活者としての外国人が生活上の課題を解決するための日本語コミュニケーション能力の育成、及び、受講者の日本語能力を受講者・支援者の間で共有できるように可視化された評価の実施の二点である。

一つ目の目的は、本研究会が開発した「タスク積み上げ型」シラバス、指導法、教材を用い日本語教室を実施することで達成可能となる。「タスク積み上げ型」の日本語教育は、主に留学生対象の「文型積み上げ型」とは異なり、文型ではなくタスクを積み上げるものである。易しいタスクを積み上げてより複雑な難しいタスクが行えるようにし、生活者としての外国人が生活上の課題を解決するための日本語コミュニケーション能力の育成を目標とする。

もう一つの目的は、教室に通う外国人にも、日本語支援にあたるボランティアにも、日本語能力が把握できないという問題を解決するために掲げたものである。学習者（以下、受講者）にとって、日本語能力の向上が把握できることは、学習動機を維持する大きな原動力である。しかし、特に、音声言語による口頭コミュニケーション能力は、その能力の向上が把握しにくいいため、学習動機を衰退させる大きな要因にもなっている。また、日本語能力の可視化・共有化されていれば、支援にあたるボランティアの方々にも教室活動の内容選定・準備、コース運営など大きなメリットがある。

2. 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
6月3日 16:30 ～18:00	群馬県立 女子大学 23号教室 (群馬県佐 波郡玉村 町上之手 1395-1)	伊藤 健人 川端 一博 木暮 律子 ヤン・ジョンヨン 太田 祥一	1)事業概要の確認 2)今後のスケジュールについて 3)第Ⅰ期日本語教室の進め方(開催場所・開催日時・担当講師等)について 4)評価について 5)参加者募集について	事業概要を確認し、今年度のスケジュールを検討した。また、第Ⅰ期日本語教室の開催場所、日時、担当講師、評価について具体的に検討した。参加者募集についても昨年度の反省を基に、チラシ案の検討と広報方法等を検討した。

10月14日 18:00～20:00	群馬県立女子大学 352号教室 (群馬県佐波郡玉村町上之手 1395-1)	伊藤 健人 木暮 律子 ヤン・ジョンヨン	1) 第Ⅰ期日本語教室のこれまでの振り返りと最終回の評価について 3) 第Ⅱ期日本語教室の進め方(開催場所・開催日時・担当講師等)について 4) 参加者募集について	これまでの第Ⅰ期日本語教室を振り返り、第Ⅱ期日本語教室の運営方法について検討した。また、第Ⅱ期日本語教室の開催場所、日時、担当講師を検討した。参加者募集についても、参加者募集のためのチラシ案、広報方法についても確認した。
--------------------	---	----------------------------	--	--

【写真】※ 第1回運営委員会の様子



3. 日本語教室の開催について

(1) 講座名: 「日本語でできた！」(日本語能力が見える日本語教室)

(2) 開催場所:

【第Ⅰ期】 高崎市労使会館 第4会議室(1回のみ同会館の第1会議室を使用)

(群馬県高崎市東町 80-1)

【第Ⅱ期】 群馬県立女子大学 新館第1会議室

(群馬県佐波郡玉村町上之手 1395-1)

(3) 学習目標:

生活者としての外国人が生活上の課題を解決するための日本語コミュニケーション能力の育成

※上記のような学習目標の他に、日本語教育支援活動の目的として以下のような点にも留意した。

・日本語能力に関する評価を可視化し、受講者・支援者の間で共有すること

(4)使用した教材・リソース:

自作教材「日本語でできた！」(第Ⅱ期・第4回の教材を参考教材として添付する)

<日本語でできた！④>

4回目

経験を説明できた！

【休みの間に何をしましたか？】

①	どこに行きましたか？	
②	誰と行きましたか？	
③	何をしましたか？	
④	楽しかったですか？ それとも、大変でしたか？	
⑤	トラブルがありましたか？	

◇どんな気持ち？

- ・うれしかったとき：とてもうれしかったです、喜び上がるほどうれしかったです
- ・安心したとき：ほっとしました
- ・びっくりしたとき：ショックでした、すごく驚きました、「なんで」という気持ちでした。
- ・悲しかったとき：涙が出るほど悲しかったです
- ・心配したとき：心配で寝も眠れませんでした、心配で気が収まらなかったです



1

―なくしたときのことを話してみましょう―



例) これは、この間、デパートに買い物に行ったときの事です。

その日は車で傘を持って出かけたんですが、その傘は買ったばかりの新品でした。

いろいろお店を見て回っている間に、どこかのお店に傘を置いてきてしまっ

た。買い物袋を持って帰ろうとしたときに、傘が無いことに気がつきました。

まだ新品だったので、とてもショックでした。

急いでインフォメーションセンターに行ってきたら、

親切な人がちゃんと届けてくれていました。

傘が見つかって、本当にうれしかったです。



【物をなくしたことはありませんか？経験を話してみましょう。】

なくしたときの状況	
場所	
もの	
気づいたときの状況	
そのときの気持ち	
そのあとやったこと	
そのあとの気持ち	

2

<日本語でできた！④>

◆◆◆ タスク 1 ◆◆◆

あなたは駅に自転車を停めて、買い物に行きました。
買い物をして駅に戻ったら、停めたところに自転車がありません。
どうすればいいのかわからないので、誰かに聞いてみたいと思います。



◆◆◆ タスク 2 ◆◆◆

あなたは友だちに会いに車に出かけました。
でも、途中から車の調子がおかしいです。
いったん停めてみたけれど、もうエンジンが回りません。
誰かにいまの状況を説明して、助けてもらいたいと思います。



☆他にも (こんなときどうする?)

―電車の中に大事な本を置いてきたとき

―足下に置いたカバンがいつの間にかなくなっていたとき

―ショッピングセンターで子どもがいなくなったとき



3

☆他にも (こんなときどうする?)

―パソコンが急に動かないとき

―夜間 (クーラー) の電源が入らないとき

―自動販売機にコインを入れても飲み物が出てこないとき



4

◆ものがなくなったとき

- ① ああ、 (な) んです。
例) ああ、すみません、自転車(自転車)がなくなったみたいなんですけど。
- ② のに、いま見たら ていて…。
例) そこに停めておいたのに、いま見たらなくなって…。
- ③ 何(なん)でも たんですけど、いくら てもないんです。
例) この辺は何度も確認(確認)したんですけど、いくら探(さが)してもないんです。
- ④ たぶん じゃないかと思うんです。
例) たぶん、誰(だれ)か間違(まちが)えて持(も)っていったんじゃないかと思うんです。
- ⑤ まだ なんです。探(さが)していただませんか？
例) まだ買ったばかりの新品(新品)なんです。探(さが)していただませんか？

◆ものが壊れたとき

- ① ああ、 (な) んです。
例) ああ、車(くるま)が故障(こわ)したみたいなんです。
- ② まで大丈夫(だいじょうぶ)だったのに、 に てしまって…。
例) さっきまで大丈夫(だいじょうぶ)だったのに、 に なくなってしまう…。
- ③ ても んです。
例) もう二回(にかい)エンジン(エンジン)をかけても動(うご)かないんです。
- ④ たり たりしてみても全然(ぜんぜん)ダメ(だめ)です。
例) エンジン(エンジン)をかけてみたり、エンジン(エンジン)の中(うち)を触(ふ)ってみたりしても全然(ぜんぜん)ダメ(だめ)です。
- ⑤ ばいいんですか？
例) 何を(なに)どうすればいいんですか？

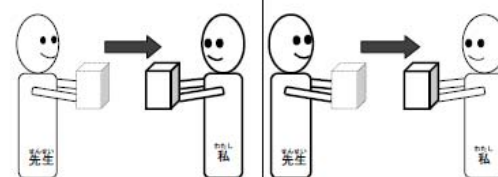
◆ものが壊れたり、なくなったときの気持ち

- ① て、 たです(でした)。
例1) 気づいたらなくなって、とても悲(かな)しかったです。
例2) どこかに落(お)ちてしまって、本当にシ(し)ョック(ショック)でした。
- ② のに て、 気持ち(きもち)でした。
例) 大事(だいじ)にしていたのに壊(こわ)れてしまって、信じ(しんじ)られない気持ち(きもち)でした。
- ③ さんに てもらいました。
例) 話(はな)っていたので、友人(とも)の A さんに助(たす)けてもらいました。
- ④ 手(て)伝(でん)ってもらって本(ほん)当(とう)に助(たす)かりました。
- ⑤ A さんにはいまも感(かん)謝(しゃ)しています。

※「～てもらう」と「～てくれる」

私は先生(せんせい)にプリントをもらう

先生(せんせい)は私(わたし)にプリントをくれる



私は先生(せんせい)に日本語(にほんご)を教(おし)えてもらう

先生(せんせい)は私(わたし)に日本語(にほんご)を教(おし)えてくれる

(5) 受講者の募集方法:

【方法と媒体】

<ホームページによる掲載>

- ・(財) 群馬県観光国際協会 HP (国際交流支援サイト)、群馬県 HP、群馬県立女子大学 HP、群馬県日本語教育人材・情報バンク HP

<チラシの配布>

- ・開催場所の周辺市町村の店舗 (スーパー、コンビニ等) (第Ⅱ期のみ)

<メールにおける広報>

- ・本研究会の教室に前年度以前に参加した方へのメールでの呼びかけ

【応募書類と応募方法】

- ・以下のチラシの申込書に必要事項を記入し FAX および電子メールで受け付けた

[第Ⅰ期日本語教室チラシ：表]

日本語教室

日本語で できた!

いまだで「日本語じゃちょっと」とか「もっとうまく話したいのに」と思ったことはありませんか?
群馬県立女子大学・高崎経済大学の先生が「生活に必要な日本語」を教えます。

<場所>
高崎市文化会館 (〒370-0045 群馬県高崎市第80-1)
最寄り駅: JR「高崎駅」東口から徒歩約10分 ※車で来ても大丈夫です。
<時間と曜日>
教室 18:30～20:30 ぜんぶで 12回です

1	8月10日	2	8月17日	3	8月24日	4	8月31日
5	9月7日	6	9月14日	7	9月21日	8	9月28日
9	10月5日	10	10月12日	11	10月19日	12	10月26日

一冊しくは、次のページを繰んでください。

↑ 群馬県国際交流文化共生推進係 行き FAX: 027-221-0300 ↑

日本語教室「日本語で できた!」FAX申し込みシート

名前	[]	性別	[男/女]
仕事	[]	年齢	[]歳
住所	[]市・町・部 []		
電話番号	[] - [] - []		
メール	[]@ []		
国籍	[中国・台湾・韓国・フィリピン・インドネシア・ベトナム・タイ・ペルー・ブラジル・マレーシア・その他()]		
いつ以来に 来ましたか?	[]年・[]月 ()年ぐらい前		
いまだで日本語 を勉強したこと がありますか?	☐ 自分の国で勉強しました。 ☐ []で []年()月くらい ☐ 日本で勉強しました。 (日本語学校/日本語教室)で []年()月くらい ☐ 自分で日本語の勉強をしました。 []年()月くらい ☐ 日本語学校や日本語教室で勉強したことはありません。		
若の(1)～(4)の 勉強は、いくつ わかりますか?	☐ (1) A 今後の日程どこへ行きますか? B 家族と東京へ買い物に行こうと思います。 ☐ (2) A 家族の旅行はどうでしたか? B 道が混んでいてずっと遅延していたので、遅れました。 ☐ (3) A すみません、郵便局はどこですか? B あの角を右に曲がって100メートルぐらいのところですよ。 ☐ (4) A 昨日からお腹が痛いんですが、どの薬がいいですか? B それならこの薬がいいですよ。1日3回、食後に飲んでください。		

[第Ⅰ期日本語教室チラシ：裏]

平成22年度 文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 日本語教室設置事業

群馬県日本語教育支援政策研究会 主催

日本語教室 「日本語で できた!」のお知らせ

【外国人のみなさんへ】
いまだで「日本語ではちょっと」とか「もっとうまく話したいのに」と思ったことはありませんか?
群馬県立女子大学・高崎経済大学の先生が「生活に必要な日本語」を教えます。

【この日本語教室の特徴】

- ◆いろいろな人と日本語でコミュニケーションができるようになります。
・会社や近所の人と日本語で話ができるように、発音の練習をたくさんします。
・漢字や文法を覚えるだけではなく。
- ◆いまだで、日本語でうまく話せなかったことができるようになります。
・テキストには、みなさんが日本語でうまく話さなくて困っていることがたくさん書いてあります。
(例:「早退したい」「交際した相手を会いたい」「映画のストーリーを説明したい」「病院に行きたい」など)
・いまだで「日本語ではちょっと難しい」と思っていたことが、日本語でうまく話せるようになります。

1. 来てほしい人 (この教室の日本語のレベル)

- ・1回目から12回までぜんぶおられる人 (辞さない人)
- ・早の(1)～(4)の勉強がぜんぶわかる人 (日本語能力試験N4～N3 (5級) レベルの人)

(1) A 今後の日程どこへ行きますか?
B 家族と東京へ買い物に行こうと思います。

(2) A 家族の旅行はどうでしたか?
B 道が混んでいてずっと遅延していたので、遅れました。

(3) A すみません、郵便局はどこですか?
B あの角を右に曲がって100メートルぐらいのところですよ。

(4) A 昨日からお腹が痛いんですが、どの薬がいいですか?
B それならこの薬がいいですよ。1日3回、食後に飲んでください。

2. 時間と曜日
・8月10日～10月26日の毎週水曜日
18:30～20:30 ぜんぶで12回です

① 8月10日 インタビュー	② 8月17日	③ 8月24日	④ 8月31日	⑤ 9月7日	⑥ 9月14日
⑦ 9月21日	⑧ 9月28日	⑨ 10月5日	⑩ 10月12日	⑪ 10月19日	⑫ 10月26日 パーティー

3. 場所
・高崎市文化会館 (第4会議室)
(駐車場があります。無料です。)
〒370-0045 群馬県高崎市第80-1
電車から来る場合: JR「高崎駅」東口から歩いて約10分

4. 必要なお金
・12回ぜんぶで500円です。

5. 申し込み
・E-mailかFAXで 7月29日までに申し込んでください。
①E-mailの報告: gunma.japanese@gmail.com に、件名(subject): 「日本語でできた!」と書いて送ってください。そのあと、電話から「E-mail申し込みシート」を送ります。
②FAXの報告: 「FAX申し込みシート」に名前や住所などを書いて、027-221-0300に送ってください。

※ わからないことがあったら、027-225-3396に電話して「皆さん、お疲れ様です」と言ってください。
<問い合わせ先> 群馬県生活文化国際課 多文化共生推進係 係 TEL 027-225-3396

■主催: 群馬県日本語教育支援政策研究会
■共催: 群馬県立女子大学地域言語教育センター附属室、(財)群馬県観光開発協会
■後援: 高崎市、高崎商工観光振興会

【第Ⅱ期日本語教室チラシ:表】

にほんごきょうしつ
日本語教室

日本語で できた!

いままで「日本語じゃちょっと…」とか「もっとうまく話したいのに…」と思ったことはありませんか?
群馬県立女子大学・高崎経済大学の日本語の先生が「生活に必要な日本語」を教えます。

<場所>
群馬県立女子大学 〒370-1127 群馬県佐田郡深田町上之平1395-1
※車で来て大丈夫です。
<時間と曜日>
毎週 金曜日 18:30~20:30 ぜんぶで12回です。さいしょとさいごにだけが、祭日です。

① 11月30日 (水)	② 12月2日 (金)	③ 12月9日 (金)	④ 12月16日 (金)	⑤ 1月6日 (金)	⑥ 1月20日 (金)
⑦ 1月27日 (金)	⑧ 2月3日 (金)	⑨ 2月10日 (金)	⑩ 2月17日 (金)	⑪ 2月24日 (金)	⑫ 2月29日 (水)

※12月23日、12月30日、1月13日は おやすみです。

↑ 群馬県日本語教育支援政策研究会 行き FAX: 0270-65-9538
日本語教室「日本語でできた!」FAX申し込みシート ↑

名前	[]	性別	[男/女]
仕事	[]	年齢	[]歳
住所	[]市・町・部	[]	
電話番号	[] - [] - []		
メール	[]@ []		
国	[中国・台湾・韓国・フィリピン・インドネシア・ベトナム・タイ・ペルー・ブラジル・マレーシア・その他か()]		
いつ日本に来ましたか?	[]年・[]月 ([]年ぐらい前)		
いままで日本語を勉強したことがありますか?	☐ 自分の国で勉強しました。 []で []年([]月くらい) ☐ 日本で勉強しました。 (日本語学校・日本語教室)で []年([]月くらい) ☐ 自分で日本語の勉強をしました。 []年([]月くらい) ☐ 日本語学校や日本語教室で勉強したことはありません。		
右の(1)~(4)の英語は、いくつわかりますか? ☐ に✓を書いてください。	☐ (1) A 今度の日本語どこへ行きますか? B 家族と東京へ買い物に行こうと思います。 ☐ (2) A 先週の旅行はどうでしたか? B 道が混んでいてずっと遅延していたので、疲れました。 ☐ (3) A すみません、郵便局はどこですか? B あの奥を右に曲がって100メートルくらいのところですよ。 ☐ (4) A 昨日からお腹が痛いんですが、どの薬がいいですか? B それならこの薬がいいですよ。1日3回、食後に飲んでください。		

【第Ⅱ期日本語教室チラシ:裏】

平成 23 年度 文化庁「生涯学習としての外国人」のための日本語教育事業 日本語教室設置選考
群馬県日本語教育支援政策研究会 主催

にほんごきょうしつ
日本語教室 「日本語でできた!」のお知らせ

<外国人のみさんへ>
いままで「日本語ではちょっと…」とか「もっとうまく話したいのに…」と思ったことはありませんか?
群馬県立女子大学・高崎経済大学の日本語の先生が「生活に必要な日本語」を教えます。

<この日本語教室の特長>

- いろいろな人と日本語でコミュニケーションができるようになります。
・会社や塾の人と日本語で話ができるように、英語の練習をたくさんします。
・漢字や文法を覚えるだけではありません。
- いままで、日本語でうまく話せなかったことができるようになります。
・テキストには、みなさんが日本語でうまく話さなくて困っていることがたくさん書いてあります。
(例:「早退したい」「交際した話を聞いて」「前編のストーリーを説明したい」「病院に行きたい」など)
・いままで「日本語ではちょっと難しい」と思っていたことが、日本語でうまく話せるようになります。

1. 来てほしい人 (この教室の日本語のレベル)

- ・1回目から12回までぜんぶ来られる人 (休まない人)
- ・早の(1)~(4)の英語がぜんぶわかる人 (日本語能力試験N4~N5 (5級) レベルの人)

(1) A 今度の日本語どこへ行きますか?
B 家族と東京へ買い物に行こうと思います。

(2) A 先週の旅行はどうでしたか?
B 道が混んでいてずっと遅延していたので、疲れました。

(3) A すみません、郵便局はどこですか?
B あの奥を右に曲がって100メートルくらいのところですよ。

(4) A 昨日からお腹が痛いんですが、どの薬がいいですか?
B それならこの薬がいいですよ。1日3回、食後に飲んでください。

2. 時間と曜日
・11月30日~2月29日の毎週金曜日 ※さいしょとさいごにだけが、祭日です

①11月30日 (水) インタビュー	②12月2日 (金)	③12月9日 (金)	④12月16日 (金)	⑤1月6日 (金)	⑥1月20日 (金)
⑦1月27日 (金)	⑧2月3日 (金)	⑨2月10日 (金)	⑩2月17日 (金)	⑪2月24日 (金)	⑫2月29日 (水) パーティー

※12月23日、12月30日、1月13日は おやすみです。

3. 場所
・群馬県立女子大学 (新館1階 第2会議室) 555号
入口を入ってすぐ右にある建物です。
〒370-1127
群馬県佐田郡玉村町上之平1395-1
(駐車場等があります。無料です。)
(駅から歩いて40分くらいです)

4. 必要なお金
・12回ぜんぶで500円です。

5. 申し込み
・E-mail か FAX で11月29日まで申し込んでください。
①E-mail の場合: gunma.japanese@gmail.com に、件名(subject): 「日本語でできた!」と書いて送ってください。そのあと、私たちから「E-mail申し込みシート」を送ります。
②FAX の場合: 「FAX申し込みシート」に名前や住所などを書いて、0270-65-9538 に送ってください。

※わからないことがあったら 0270-65-8511 に電話して「日本語教室の勉強会、お願いします」と言ってください。電話の時間は、朝9時から夕方5時までです。土曜日と日曜日はお休みです。

<問い合わせ先> 群馬県日本語教育支援政策研究会 佐田 TEL 0270-65-8511
■主催: 群馬県日本語教育支援政策研究会 ■共催: 群馬県、(財)群馬県児童福祉協会

(6) 受講者の総数 28 人

＜第Ⅰ期＞ 12 人

(出身・国籍別内訳 : 中国 4 人、アメリカ 3 人、カナダ 2 人、イギリス 1 人、
フィリピン 1 人、ペルー 1 人)

＜第Ⅱ期＞ 16 人

(出身・国籍別内訳 : 中国 5 人、アメリカ 4 人、ブラジル人 2 人、ペルー 4 人、
フィリピン 1 人)

(7) 開催時間数(回数) 46 時間 全 23 回

＜第Ⅰ期＞ 22 時間(全 11 回)※台風接近の為 1 回分中止

＜第Ⅱ期＞ 24 時間(全 12 回)

(8) 日本語教室の具体的内容

【第Ⅰ期】

回	開催日時	時間数	受講者数	国籍・母語 (人)	教授者 補助者 人数	内容
1	8 月 10 日 18:30~20:30	2 時間	7 人	中国人・中国語(2 人) アメリカ・英語(1 人) カナダ・英語(1 人) イギリス人・英語(1 人) フィリピン人・タガログ語 (1 人) ペルー・スペイン語(1 人)	教授者 1 人 補助者 1 人	初回インタビュー
2	8 月 17 日 18:30~20:30	2 時間	12 人	中国人・中国語(4 人) アメリカ・英語(3 人) カナダ・英語(2 人) イギリス人・英語(1 人) フィリピン人・タガログ語 (1 人) ペルー・スペイン語(1 人)	教授者 1 人 補助者 1 人	①友だちができた！
3	8 月 24 日 18:30~20:30	2 時間	6 人	中国人・中国語(3 人) アメリカ・英語(2 人) フィリピン人・タガログ語 (1 人)	教授者 1 人 補助者 1 人	②オススメが言えた！
4	8 月 31 日 18:30~20:30	2 時間	11 人	中国人・中国語(4 人) アメリカ・英語(3 人) カナダ・英語(2 人) イギリス人・英語(1 人)	教授者 1 人 補助者 1 人	④欲しいものが説明できた！

				フィリピン人・タガログ語 (1人)		
5	9月7日 18:30~20:30	2時間	7人	中国人・中国語(3人) アメリカ・英語(3人) フィリピン人・タガログ語 (1人)	教授者 1人 補助者 1人	④どんな時に使う ものか説明でき た！
6	9月14日 18:30~20:30	2時間	12人	中国人・中国語(4人) アメリカ・英語(3人) カナダ・英語(2人) イギリス人・英語(1人) フィリピン人・タガログ語 (1人) ペルー・スペイン語 (1人)	教授者 1人 補助者 1人	⑤どんな人が説 明できた！
-	9月21日 18:30~20:30	台風接近の為中止				
7	9月28日 18:30~20:30	2時間	8人	中国人・中国語(2人) アメリカ・英語(2人) カナダ・英語(2人) イギリス人・英語(1人) フィリピン人・タガログ語 (1人)	教授者 1人 補助者 1人	⑥どうすればいい か説明できた！
8	10月5日 18:30~20:30	2時間	6人	中国人・中国語(2人) アメリカ・英語(2人) カナダ・英語(1人) ペルー・スペイン語(1 人)	教授者 1人 補助者 1人	⑦経験が言え た！
9	10月12日 18:30~20:30	2時間	6人	中国人・中国語(2人) アメリカ・英語(1人) カナダ・英語(1人) フィリピン人・タガログ語 (1人) ペルー・スペイン語(1 人)	教授者 1人 補助者 1人	⑧パーティーのプ ランが立てられ た！
10	10月19日 18:30~20:30	2時間	4人	中国人・中国語(1人) アメリカ・英語(1人) カナダ・英語(1人)	教授者 1人 補助者	⑨どんなストーリ ーか説明でき た！

				フィリピン人・タガログ語 (1人)	1人	
11	10月26日 18:30～20:30	2時間	6人	中国人・中国語(2人) アメリカ・英語(2人) カナダ・英語(1人) フィリピン人・タガログ語 (1人)	教授者 1人 補助者 1人	パーティーと 終了インタビュー

【第Ⅱ期】

回	開催日時	時間数	受講 者数	国籍・母語 (人)	教授者 補助者 人数	内容
1	11月30日 18:30～20:30	2時間	9人	中国人・中国語(2人) アメリカ・英語(4人) ペルー・スペイン語(2人) フィリピン人・タガログ語 (1人)	教授者 1人 補助者 1人	初回インタビュー
2	12月2日 18:30～20:30	2時間	9人	中国人・中国語(3人) アメリカ・英語(4人) ペルー・スペイン語(2人)	教授者 1人	①友だちができた！
3	12月9日 18:30～20:30	2時間	12人	中国人・中国語(3人) アメリカ・英語(3人) ペルー・スペイン語(5人) フィリピン人・タガログ語 (1人)	教授者 1人 補助者 1人	②オススメが言えた！
4	12月16日 18:30～20:30	2時間	10人	中国人・中国語(4人) アメリカ・英語(4人) ペルー・スペイン語(1人) フィリピン人・タガログ語 (1人)	教授者 1人 補助者 1人	③どんなもの・場所か説明できた！
5	1月6日 18:30～20:30	2時間	8人	中国人・中国語(1人) アメリカ・英語(4人) ペルー・スペイン語(1人) ブラジル・ポルトガル語	教授者 1人 補助者 1人	④経験を説明することができた！

				(2 人)		
6	1 月 20 日 18:30~20:30	2 時間	6 人	中国人・中国語(1 人) アメリカ・英語(4 人) フィリピン人・タガログ語 (1 人)	教授者 1 人 補助者 1 人	⑤早退できた！
7	1 月 27 日 18:30~20:30	2 時間	7 人	中国人・中国語(1 人) アメリカ・英語(4 人) ペルー・スペイン語(1 人) フィリピン人・タガログ語 (1 人)	教授者 1 人	⑥アドバイスが できた！
8	2 月 3 日 18:30~20:30	2 時間	9 人	中国人・中国語(2 人) アメリカ・英語(4 人) ペルー・スペイン語(2 人) フィリピン人・タガログ語 (1 人)	教授者 1 人	⑦説得ができ た！
9	2 月 10 日 18:30~20:30	2 時間	5 人	アメリカ・英語(3 人) ペルー・スペイン語(1 人) フィリピン人・タガログ語 (1 人)	教授者 1 人	⑧どんな人か説 明できた！
10	2 月 17 日 18:30~20:30	2 時間	7 人	中国人・中国語(1 人) アメリカ・英語(4 人) ペルー・スペイン語(1 人) フィリピン人・タガログ語 (1 人)	教授者 1 人	⑨習慣について 説明できた！
11	2 月 22 日 18:30~20:30	2 時間	6 人	中国人・中国語(1 人) アメリカ・英語(4 人) フィリピン人・タガログ語 (1 人)	教授者 1 人 補助者 1 人	⑩国の習慣につ いて発表すること ができた！
12	2 月 29 日 18:30~20:30	2 時間	7 人	中国人・中国語(1 人) アメリカ・英語(4 人) ペルー・スペイン語(1 人) フィリピン人・タガログ語	教授者 1 人 補助者 1 人	パーティーと 終了インタビュー

				(1 人)		
--	--	--	--	-------	--	--

(9) 特徴的な授業風景

この日本語教室の目的は、生活者としての外国人が生活上の課題を解決するための日本語コミュニケーション能力の育成と、受講者の日本語能力を受講者・支援者の間で共有できるように可視化された評価を行うことである。以下では、この日本語教室の教室活動の特徴を述べ、中で取り入れている評価の方法について述べる。

【教室活動について】

昨年度同様、本研究会で考案した「タスク積み上げ型」のシラバス及び教材を用い、日常生活の困難点をタスクとして据え、それらが参加者同士の日本語コミュニケーションを通して解決できるように教室活動を行った。以下の[表 1]は教室活動の流れである。

[表 1]「日本語でできた！」の授業の流れ

時間	内容	実施者
15 分	I. ウォーミングアップ ①おしゃべり→当日のタスクに関わる事柄を話し合う ②おしゃべり→困ったこと(課題)への誘導	日本語教師
40 分(55 分)	II. タスク1 ① 課題の提示 ② 課題解決の方法(全体で話し合う) ③ 実践練習(グループの中でロールプレイ) ④ クラス全体での発表 ⑤ 言語的な挫折を見せたところをフォロー(Focus on Form) ⑥ 場面を変えて、応用練習→タスクの解決	日本語教師 ※②③では ボランティア が会話の相手となる
10 分(65 分)	休憩	
40 分(105 分)	III. タスク2 ※上記①～⑥の繰り返し	
15 分(120 分)	IV. 振り返り(及び、クールダウン) ①特に問題があると思われる表現や発音の確認 ②生活支援(語彙や文型にとらわれず、身の回りの情報交換)	日本語教師 ボランティア

教室活動の中では「タスク 1、2」が最も重要な活動となる。ここでいう「タスク」とは、日常生活で日本語コミュニケーション能力の欠如のより解決できなかった課題を意味する。生活上の課題の解決を動機とする受講者にとって、ここでの「タスク」がそのまま実生活に役立つ。

ここで重要なのは、語彙や文型という言語知識そのものではなく、日本語を使って目標とするタスクが解決できるという、“課題遂行能力”である。このような課題遂行能力は、具体的には現実的なやりとり(ロールプレイ(role-play))などによって身につけられるものであるため、特定の場面・状況を設定し、その中での役割(role)を与えて、それに従い自由に会話をする練習方法をとった。



この日本語教室は、日本語教師とボランティアが協働し教室活動を行っているのが特徴である。日本語教師とボランティアにはそれぞれの役割がある。

「日本語でできた！」では日本語教師はあくまで授業の進行役であり、無理に教え込むようなことはしない。日本語教師の役割は具体的には、以下①に挙げるように教室活動の全領域に関わる。

① 日本語教師の役割

- ・全体のコントロール
- ・ボランティアや受講者への指示
- ・ボランティアへの助言
- ・話題の提供と展開
- ・会話のモデル
- ・タスクの難易度の調整
- ・必要最小限の言語形式及び談話構成等の説明
- ・各活動のまとめ

日本語教師は、その日の各活動がスムーズに達成されるように、時間配分を考え調整をしながら、全体の流れをコントロールする。ボランティアや受講者への指示を出すだけではなく、全体に対して話題を提示したり、その話題を展開させたり、タスクでの会話のモデルを示したりする。また、予め用意したタスクが易しすぎたり難しすぎたりした場合に、それらを受講者のレベルに合わせて、難しくしたり易くしたりすることも必要となる。クラス全体を見渡し、各グループで出された新しい表現や間違った発話を的確に吸い上げ、クラス全体で共有できるようにする。特に、大きな誤用が出た場合は、必要に応じて日本語表現(語彙的、文法的、談話的なものなど)の説明を行う。そのために、必要だと思われる表現をホワイトボード

に書いたり、文法的な説明も行う。それぞれのグループ活動の最後には、まとめを挟むことも必要である。

一方で、「日本語でできた！」でのボランティアの役割は主に受講者の会話の相手になることである。

② ボランティアの役割

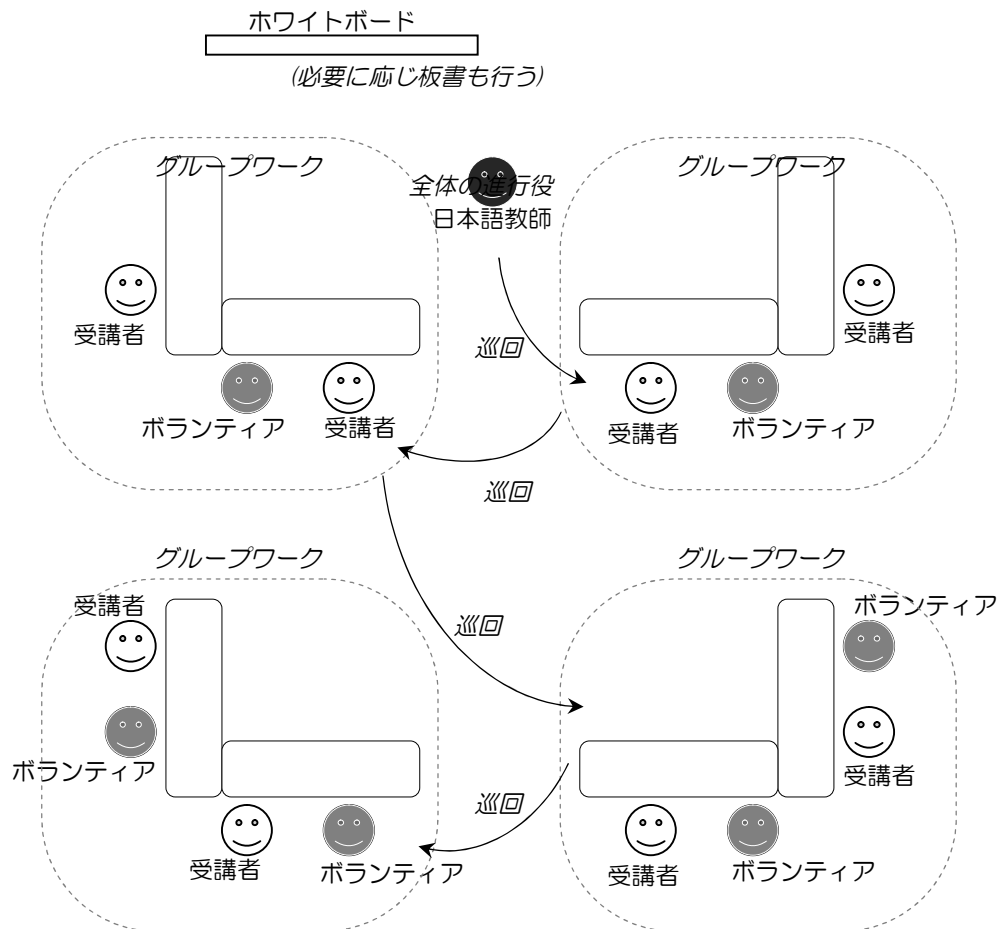
- ・日本語教室の参加者
- ・会話の相手
- ・誤用の修正
- ・受講者の学習の進捗を観察・チェック

この教室では支援者であるボランティアも参加者の一人として考える。即ち、ボランティアが「教える人」で、受講者が「教わる人」といった非対称的な関係としては捉えていない。両者は対等な関係の中でおしゃべりをしながら日本語教師が提示した話題について解決法を考える。ボランティアの役割のポイントは、受講者の話しを引き出すことである。一言でも多くアウトプットできるように手助けしていくことが必要とされ、そのためには自分だけが話しすぎないこと、相手がゆっくり話していても根気よく待つことが必要である。また、その日行うタスクが何を目的としているのか理解し、話がそれでも当該のタスクが達成できるよう修正しながら話を進めることに徹する。

一般的な日本語教室では多く見られるマンツーマン式、あるいは1人のボランティアが2～4人の複数の受講者を担当していることが多いため、本教室では普段と同じように支援ができるようにした。日本語教師に比べ受講者の隣でじっくり対応することができるので、受講者ごとの課題を詳細に把握することができる利点がある。さらに、ここで把握された課題は日本語教師や受講者と共有できるように話し合いも行った。教室ではボランティアも外国人の受講者と同様にクラス全体への問いかけに答えたり、必要に応じてグループ内で受講者のわからない日本語表現の簡単な説明も行ったり、大きな誤用(発音、活用、助詞、文法、意味の混同・誤解など)がある場合は訂正することもある。訂正が難しい場合や困ったときには進行役の日本語教師の手助けや他のボランティア、受講者に声をかけ、みんなで課題を解決できるようにした。

このような役割が果たしやすいように、以下の[図1]のように机をL字型に並べ4つの島(グループ)を作り、ボランティアと受講者が好きな席に自由に座れるようにしている。日本語教師は基本的には全受講者の顔が見える前にいるが、必要に応じて各グループの活動を回すこともある。

〔図1〕教室の配置と日本語教師の動線



日本語教師が前におり、受講者が全員前を向いた状態の、いわゆる学校型の配置にしている理由には以下の四点である。

③ 「L字・島型」配置の狙い

- ・受講者・ボランティア共に学び合う関係作り
- ・参加者の緊張感の軽減
- ・受講者のレベル差への配慮
- ・ボランティアによる受講者の日本語能力の評価を行いやすくする

一般に地域の日本語教室は学校のように、ボランティアが先生で、外国人受講者が生徒という位置づけではないと考えられる。日本語がわかる人と同じく、生活情報に詳しい人がそうではない人に未知の情報を伝えたりしながら学習する場である。そのため、互いに「話し合う」関係を作れるように上記のような小さなグループを作っている。また、この教室の活動スタイルはクラス全体で参加するタイプの授業ではあるため、ロールプレイなどをクラスの構成員全員に向けて行うことも多い。ただし、いきなりみんなの前で話すことにプレッシャーを感じるのは日本語ができる人でもよくあることであるため、無駄な緊張感を軽減させ、身近な人とのやりとりを経て、最後にクラス全体で共有できるようにしている。さらに、受講者のレベルが一定ではないため、受講者同士でも互いに助け合う関係になるようにするためにもこの

ような配置を採用した。

上記の方法では一つの島に 2～4 人程度の人がグループとなり、日本語教師の提示するタスクを解決する方法を考え、話し合いを通して解決策を探っていく。その際に一つの小さなグループで教室活動を行うことでよりきめ細かく受講者の日本語習得の状況を把握できるといった利点がある。これはこの日本語教室の目的の一つでもある「共有可能な評価の方法」の観点においても有効である。

以上、日本語教師とボランティアの役割についてみてきた。日本語教師はあくまで授業の進行役であり、ボランティアの力を借りながら教室活動を行っている。日本語教師はボランティアが安心して活動に集中できるようにサポートし、ボランティアも普段通り受講者とやりとりしながら支援できる環境作りをしている。この教室で行っている評価の方法については以下で述べる。

【評価について】

生活者としての外国人の多くは教科書等で言語知識を身につけた人は少なく、日常生活の中で自然習得に近い形で習得している人が多い。そのため、一般的なペーパーテストでは現在の日本語能力を十分に測ることは難しい。しかし、音声言語による口頭コミュニケーション能力は、その能力の向上が把握しにくいと、学習動機を衰退させる大きな要因になっている。また、支援にあたるボランティアにとっても受講者の日本語能力把握する具体的な方法がないことから支援の方法や内容の選定などの改善が行いにくいといった困難点がある。もし日本語能力が受講者・支援者にわかりやすく可視化・共有化されていれば上記の困難点を解決できる可能性がある。

この日本語教室では、コース開始前の診断的な評価と、コース終了後の総括的な評価を口頭インタビュー形式で行った。また、毎回の教室活動中で当日のタスクをどの程度達成できたかをみるための形成的な評価を行った。

コース開始前・後のインタビューは、日本語能力試験の Can-do 自己評価の「話す (N4・N5)」項目を参考に作成した。しかし、この自己評価には例えば「日常的なのあいさつと、その後の短いやりとりができる」「自分の部屋について説明することができる」などのように項目が挙がっているだけでそれらが「できる」と判断されるには具体的にどんな質問と答えが必要かは不明である。そこで、「～ができる」項目を達成するために必要と思われる内容を、具体的な 3 つの質問に分けている。例えば、「自分の家族や町など身近な話題について説明することができる」ということは、「～さんの家の近くに美味しいお店はありますか?」「どこの店によく行きますか?」「どうしてそこによく行くんですか?」の質問に答えられることで「できる」と判断される。

Can-do と内包される質問の一例

Can-do	具体的な質問	
自分の家族や町など身近な話題について説明することができる	～さんの家の近くに美味しいお店はありますか?	レベル 1
	どこの店によく行きますか?	レベル 2
	どうしてそこによく行くんですか?	レベル 3

上記の3つの質問は言語学的な観点から難易度の異なる3つの質問(レベル1～3)に分けてある。レベル1は「はい／いいえ」で答えられるような最も易しいもので、レベル3は「どうして／なぜ」などの理由を説明しなければならないもので最も難しいレベルになっている。実際のインタビューでは内容が偏らないように5つの異なる話題を設定し、その中にレベル1～3に相当する質問を設けている。レベル1に答えられなければレベル0で、レベル3に形式も整えた形でしっかり答えられたらレベル3以上(つまり、レベル4)になり、全部で5段階判定になっている。時間的な制限もあるため1人10分程度で行える長さに調整した。

さらに、毎回の教室活動の際に、当日のタスクがどの程度できるようになったかをみるためのチェック方式の評価シートも取り入れた。こちらは各グループに入っているボランティアが用意されたシートに記入し、コメントを書いている(以下の評価シート参照)。毎回の教室活動では、達成すべきタスクが2つほど設けているが、例えば「経験したことについて説明できる」といったCan-doの記述では具体的にどのような内容が含まれているかが不明瞭である。身近な経験について説明できるを達成するためには、例えば「休みの日はありますか?」「休みの日に何をしますか?」「お店などで落とし物をしたことはありますか?」「そのときはどうしましたか?」「どんな気持ちでしたか?」「交番や店に問い合わせの電話をしてみましょう(role-play)」などが含まれると思われる。この日本語教室では、シラバス及び教材作成時にタスクにおける能力記述を分解し評価シートを作成している。このシートは各グループに参加しているボランティアに配布し、活動中に受講者との話し合いを行いながらチェックを入れてもらった。チェックはOPIの判定基準を参考に、「語→単文→複文→複段落」の4段階評価になっている。コメント欄には受講者の気になる誤用やうまくできたところ、日本語教師の指導方法に対する意見など様々な観点から自由に記入するようにした。

このような評価の方法は単に受講者の日本語能力を点数化するためのものではない。支援者と受講者に現時点での日本語能力を可視化することで受講者は自らの日本語能力が足りていないところに気づき、ボランティアはどこを手助けしていくべきかを知る有効なツールとして機能する。

【評価シート】

<日本語でできた！>

今日勉強したこと

1 - 6 皆金曜日

12 -

採点者: 小澤津子

語一単文一短文一短文落

※4段階評価: × 1 - 2 - 3 - 4 ◎

評価	今日、勉強したこと	備考
	(1)休みの間に何をしたら説明することができる	(1) 遊びに行った場所や見た番組、一緒に遊んだ人などが簡単に言えればよいです。
2	(2)トラブルがあったときの経験が説明することができる	(2) 出来事が説明できるかみてください。そのときの気持ちまで述べていたら上のレベルです。
3	(3)駅や交番、お店などに問い合わせをすることができる	(3) 忘れ物や事故などの状況が説明できるか見てください。
△	(4)自分の気持ちを説明することができる。	(4) (1)~(3)を語っている際に、自分の気持ちが述べられているか見てください。

※(1)~(4)ができるようになることが今日の目標です。ボランティアの方はこれができるように話を進めてください。

※なるべくやさしい日本語に変えて、話してください。

※グループで作業をするときは、学習者の発話を多く引き出すことを意識して接してください。

※学習者の日本語能力の問題で発話が出てこないときは、新しい言葉を教えたり、書いてあげたりしてください。

【備考】その他、気づいたことがありましたら書いてください。

若しくは誤用（間違え）が気になるときは、何が気になるか書いてください。

他人の体のけがに気づいた時に、あからぬことではあると、とても気になるので、すぐに警察に報告している。ただ、警察に報告した後に、あからぬことではあると、とても気になるので、すぐに警察に報告している。
(2) ショップをよく理解できなかった。
(3) 警察が、(2)の話をすると、あからぬことではあると、とても気になるので、すぐに警察に報告している。
(4) 感情を表現する言葉が、あからぬことではあると、とても気になるので、すぐに警察に報告している。

※この紙は回収してください。

グループレイ(自席横)へ受取の紙が、受取のカードバックが、あからぬことではあると、とても気になるので、すぐに警察に報告している。

1 - 6 皆金曜日

4. 事業に対する評価について

(1) 当初の学習目標の達成状況

この事業では、生活者としての外国人の日本語コミュニケーション能力の向上と、受講者の日本語能力を受講者・支援者の間で共有できるように可視化された評価の方法を探ることを目的とした。

教室活動で扱った生活上の課題(タスク)は予め設定してはいるが、集まった受講者の生活環境などを考慮し、同時シラバスの修正を行った。

第Ⅰ期・第Ⅱ期の具体的な学習計画は以下の通りである。

【Ⅰ期(8月～10月)9回の内容】

①友だちができた！	⑥どうすればいいか説明できた！
②オススメが言えた！	⑦経験が言えた！
③物の説明ができた！	⑧パーティーのプランが立てられた！
④どんなとき使うものか説明できた！	⑨どんなストーリーか説明できた！
⑤どんな人か説明できた！	

【Ⅱ期(11月～2月)10回の内容】

①友だちができた！	⑥アドバイスができた！
②オススメが言えた！	⑦説得ができた！
③どんな物か説明できた！	⑧どんな人か説明できた！
④経験を説明することができた！	⑨習慣について説明できた！
⑤早退できた！	⑩国の習慣について発表することができた！

実際の教室活動ではこれらの言語教育的な内容に加え、必要に応じて生活知識や情報を、習慣、文化的な事柄なども共有できるように努めた。文化的な事柄などについては従来の日本事情のようなステレオタイプ的な日本を紹介することを意味するものではない。参加者全員で「この辺の安いスーパーは？」や「いい病院はどこ？」などのごく普通の情報交換を行われ、それらの情報に詳しい人(外国人でも)がそうでない人に説明したりすることができるような環境作りをした。一般に教室という名の場は「お勉強」をするところとして認識されやすいが、地域の日本語教室は日本人住民と外国人住民が共に関わり合う場・学び合う場としての機能が大きいと思われる。一般的な日本語教室との違いは、このごく普通のやりとりが単におしゃべりで終わらないように、当該のタスク(買い物かしたい、病院に行きたい)などに結びつくように調整しながら、言語的な支援にも力を入れている点である。少なくとも、参加した受講者は上記のタスクが日本語コミュニケーションによって達成できるようになった。従って、一つ目の目的は概ね達成されたと言える。

もう一つの目的である評価の方法に関しては、教室に通うだけでは明確に見えなかった自らの日本語能力を支援者と共に把握することで学習の動機がより高まったと思われる。コース開始前に行ったインタビューでは初対面でもあり緊張してうまく話せなかったり、具体的に何を話せばいいのか戸惑っていた受講者も毎回の教室活動でタスクをこなすことで、話すこ

とに自信を付けていった。評価シートに関しても、最初は支援者に点数を付けられると思っていたものが、コースの後半ではもっとうまく話せるとアピールしたり、ボランティアの付けた点数はもっと低くていい(つまり、うまくできなかったのもっと練習する)などの姿勢も見せるようになった。

(2) 受講者の習得状況

このコースで受講者に求めたものは昨年度同様①日本語コミュニケーションに必要な言語的知識・技能と、②積極性、協調性の二点である。日本語の運用力を高めるためには言語的な知識だけでは不十分で、人と関わるための積極性や協調性といった心的な側面も必要となる。教室では、受講者が日常で遭遇するであろう課題を設定し、それを解決するための話し合いを続けていくことで、受け身だった姿勢から、自ら発信する姿勢へと変容していった。また、一般的な日本語教室とは違い、クラス全体で同じ課題を解決していくことで、その他の受講者や支援者との関係も親密になっていった。

終了インタビューの際に「いままで通った日本語教室の中で一番よかった」「他の国の人の考えが聞けてとても良かった」「教材が面白かった。実際「そう、そう。そんなときあった」と思われる場面が多くてとても役に立った」などの声も多く聞かれた。

生活者としての外国人の中には長く日本に暮らしていながら日本人との関わりをほとんど持たない人もいる。それは日本語を使わなくても生活できる環境や、日本語を使うことへの不安が要因であるように考えられる。特に、ある程度日本語を話せる人であっても周りから否定的な評価を受けたりすることを恐れ、あえて関わりを持たないといった戦略を取ることも多い。

この教室では、積極性や協調性といった心的側面を重視し、教室の内外で日本語コミュニケーションを行うことの不安を取り除くことを重視した活動を行った。その結果、受講者は教室内ではもちろん、教室外での日々の生活においても日本語コミュニケーションを行うことに積極的になった。具体的には教室内で他の参加者がコミュニケーション的な問題で困っているときに助け合おうとしたり、自分より日本語レベルの低い受講者を手助けしたりといった姿勢が見られるようになった。教室外でも職場で日本語についてほめられることが多くなったとの声も聞かれた。

(3) 日本語教室設置運営の効果、成果

地元で活動するボランティアの方から、教室に参加したいという要望があり、実際に会話パートナーとして参加していただいた。「タスク積み上げ」型による教室活動を実際に体験していただくことで、「タスク積み上げ」型の手法の有効性がアピールできた。参加したボランティアからは「みんなで話し合うスタイルがとても良かった」「受講者の発話量が多くとても勉強になった」「自分の教室でもここでの方法を取り入れてみたい」「評価シートがあるからその日の目的などがよくわかった」などの感想をいただいた。

このように一部の日本語教室で見られる文型練習中心の従来型の言語知識を教え込む活動や、ボランティアと受講者の2人ペアなどの固定された関係を前提とした方法などを振り返り、生活者としての外国人に必要な生活日本語の運用能力を高める活動について改めて考

えてもらうきっかけともなった。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

日本語教室の設置や運営に関わる面での連携による効果、成果は以下の通りである。

◆群馬県生活文化部国際課との連携

県内の広域にわたり、生活者としての外国人や、ボランティア、関係者等に効果的な広報を行うことができた。

◆群馬県観光物産国際協会(旧群馬県観光国際協会)との連携

協会の HP での掲載や、各市町村の国際交流協会への周知などで、効率的な広報を行うことができた。また、本教室の活動を幅広く知っていただく機会にもなった。

◆高崎市国際交流協会との連携

高崎市をはじめ近郊に住む外国人、および日本語教育支援にあたるボランティアの方々に向けて、効果的な広報ができた。

◆群馬県立女子大学との連携

玉村町をはじめ近郊に住む外国人、および日本語教育支援にあたるボランティアの方々に向けて、効果的な広報ができた。

(5) 改善点、今後の課題について

① 現状

「タスク積み上げ型シラバス・教材」及び「日本語でできた！」の教室活動の方法は、課題達成能力の育成を目指し、言語行動を重視して組み立てている点で従来の日本語教育とは大きく異なる。地域の日本語教育の場が生活日本語を身につける場所であり、また、地域住民同士で関わり合う場であるとするならば、より現実世界に即した活動を行う必要がある。現実世界ではわからないことがあれば周りに助けを求め、困った人がいれば自ら声をかけ助け合いながら生活している。本物のやり取りを教室の中でもそのまま行え、さらにその中に系統立った教育計画が設計されることに大きな可能性を感じている。現にこの教室の取り組みは参加しているボランティアや受講者にも大変評価されている。

しかし、本研究会が行っている「タスク積み上げ型」日本語教育は、シラバスの策定、教材開発、教室活動の進行役、受講者・ボランティアへのフィードバックなど教育活動全般を数人の研究会メンバーが行っているにすぎず、その他の団体や機関などで実施するには人材不足は否めない。本研究会の取り組みを紹介してほしいといった依頼は少しずつ増えており、今後それらの要望にも応えられるような体制作りが必要となると思われる。また、そのためにも、まずは本研究会で提唱している「タスク積み上げ型」を理解し、自ら行える人材の育成が急務となる。

② 今後の課題

主な課題は以下の五点である。

【今後の課題】

- | | |
|--------------------|------------------|
| ・日本語教師及びボランティアの育成 | ←人材育成 |
| ・学習項目の検討及び教材開発 | ←学習内容の研究開発 |
| ・評価のあり方の検討 | ←評価ツールの開発 |
| ・学習目的やレベルに合わせた教室作り | ←学びの場の提供 |
| ・継続的に教室を行えるような体制作り | ←教育学習支援のための予算の確保 |

上記の課題は「人材育成」「地域日本語教育の学習内容の研究開発」「評価ツールの開発」「安定的な学びの場を提供」「そのための予算の確保」にまとめることができる。一つ目の課題である「人材育成」に関しては、本研究会で提唱している課題解決のための日本語教育の内容・方法(タスク積み上げ型)について理解を深め、自らシラバスや教材が作れるような教師やボランティアを育成していくためのものである。地域日本語教育はその担い手の不足が深刻化しており、早急に取り組んでいく必要がある。二つ目の課題の「学習内容の研究開発」は、生活者としての外国人の特性(主婦、配偶者、労働者など)を考慮し、それぞれの現状に合った学習項目を選定していくための課題である。この教室で蓄積された様々な生活上の課題に加え、これからの活動を通して学習項目や教材の妥当性を検証していくことも必要である。この課題は三つ目の「評価ツールの開発」にも活かされる。学習の内容が明確になればそれらを Can-do リスト化することも可能となる。Can-do リストができればコースの開始前に予め他言語化したチェックリストで事前評価も行いやすくなる。さらに、受講者の現段階での日本語能力を測ることができ、それを支援者とともに共有することも容易になる。四つ目と五つ目の課題は、現段階では人材や予算の関係上、複数の教室を立ち上げることが困難であり要望がある地域でも教室が立ち上げられない。また、その他の言語技能の習得などのニーズにも十分に答えられていない。いつでもその場所に行けば日本語を学べる場所を提供していくことも地域社会作りには欠かせない課題である。

③ 今後の活動予定、展望

本研究会は任意団体であるため、今後の計画の有無は予算の獲得がなければ取り組めない。そのため来年度以降も今年度同様事業が行えるかは未定である。しかし、本研究会の委員の多くは日本語教育の研究者であるため、今後も引き続き以下の内容の検討を行っていく予定である。

【今後の活動予定】

- ・学習項目の検討及び教材開発
- ・Can-do リストの開発
- ・評価方法の確立

また、要望があれば本研究会で行っている取り組みを地域の日本語教室で活動しているボランティアの方に紹介していきたいと考えている。